子どもの『こえ』からうまれた歌

～誰もが素直に本音を伝え合える温かい社会にしたい～

オープニング

「気持ち聞いて！うたプロジェクト」は、大会テーマの「声を聞くだけでなく、理解してほしい」という子ども実行委員会の思いから生まれました。夏休みに行った「気持ち聞いて！うたワークショップ」は小学2年生から大学生までの19人の子ども・若者が参加。当初、思いを言葉にするのに戸惑いましたが、奄美在住のアーティストユニットA-pulse（作曲家・ピアニストの村松健さん、地域づくり団体代表・シンガーソングライターの新元一文さん）と一緒に、シマ唄形式（6・8・6・8・6・6）で気持ちを表現しました。すると子どもたちの「親への気遣い、感謝」そして「自分を大切にしたいという願い」が見えてきました。子どもたちの表現した言葉の意図【糸】を、A-pulseの二人が紡ぎ、一つの物語として書き上げた楽曲が「あなたが好きだから」です。

完成した歌詞、「言えないことがあるんだ それはあなたが好きだから 言いたいことがあるんだ それは自分でいるために」は、子どもたちの本音の結晶です。大切な人への思いゆえの本音で表す困難さと、自分自身が「ありのままでいたい」という願い。どの感情も受け止め、そっと背中を押すような優しい歌になりました。皆さんも一緒に口ずさんでくださいね。

「あなたが好きだから」

A-pulse
作詞　新元一文　編作　村松健　　作曲　村松健

※「気持ち聞いてうたプロジェクト」参加の子どもたちの「こえ」を受け取って、この曲は生まれました。

言えないことがあるんだ それはあなたが好きだから
言いたいことがあるんだ それは自分でいるために

父さんはずっとソファーでスマホ　僕のゲームは30分だけ　どういうことだよ…
この前試合見に来てくれた
リフティング下手な僕だけど　今度の日曜日一緒にしてくれるかな
言えないことがあるんだ それは父さんが好きだから
言いたいことがあるんだ それは僕でいるために



昼間働いてその後すぐに　晩はわたしの送り迎え　笑顔が少ないね
たまには私も塾を休みたい　夜のドライブなんてどうだろう　バカな話したいなぁ
言えないことがあるんだ それは母さんが好きだから
言いたいことがあるんだ それは私でいるために

この頃朝起きにくそう　ひとりの時間だって欲しいよね　でも夜更かしし過ぎだよ
たくさん気苦労かけちゃうけれど　悪気は無いんだ許して欲しい　私のこと信じて！

精一杯ペダルを踏み込んで　坂道を僕らは登ってるんだ
足を着いてもいいんだよって母さん　強い力で 背中押してくれる父さん
ひとつだけの物語　わたしだけの人生　産んでくれてありがとう

言えないことがあるんだ それはあなたが好きだから
言いたいことがあるんだ それは自分でいるために

企画に参加したみなさん
さっちん、みっちゃん、さっちゃん、なっちゃん
まさよ、あさひ、しゅん、ゆうや、ゆづき、いとは
けいちゃん、るえな、しゅりな、しりゅう
りつき、ごう、りりか、はーちゃん、もあ

出来上がった歌を聴いて子どもたちが感じたこと

・すごいなあ。よく作れたなあと思った。特に気に入ったのは、大サビの歌詞。「足をついてもいいんだよって母さん。強い力で背中押してくれる父さん」のところ。私もそんな風に応援されてる気持ちがわかると思った。（小学生）
・曲をつくるって難しいと思うけど、本当にできてびっくりした。歌をきいて、「これわたしが書いたことじゃん」と思った。リズムも頭に定着しやすくてすぐ覚えられた。（小学生）
・リズムや演奏の音色が好きだと思った。自分の言葉も反映されてると気づいた。とってもいいと思った。（中学生）
・自分たちが夏休みに書いた短い文が、あんなステキな歌になってすごいなーと思って、親に伝わってくれたらいいなと思いました。（小学生）
・子どもの頃を思い出し、どこかなつかしい気持ちになりました。子どもにとって「親」という存在は、いやでも大きな存在です。だからこその悩み、葛藤というものがあると思います。将来、親という立場になったとき、そのようなものに真摯に向き合い、手を差し伸べられるおとなになりたいと思います。（高校生）

オープニングで歌ってみて（子どもたちの感想）

・目の前に塩田知事や議員さんがいて少し緊張して間違った所もあった。だけど、凄く楽しかったです。またあったらぜひ参加したいです。（小学生）
・とっても緊張した。でも、歌ってみたら意外とすらすら歌えた。会場のいとこたちの顔も見えた。（小学生）
・緊張したけど、のひのびと歌えたのでよかった。（中学生）
・きんちょうしておなかがいたくなって・・・練習もしたけど歌えなかった。でも、この歌はすき。（小学生）
・予想していたよりも多くの方に来場いただき、とても驚いたと当時に、この歌を多くの方に届けられたことが何よりもうれしかったです。だれもが必ず過ごす20歳までの子どもの時間を思い出し、振り返ってほしいし、目の前にいる子どもに、もう少し踏み出してほしいと思いました。ありがとうございました。（高校生）

歌の制作を通して：A-pulseのお二人より

子どもたちと触れ合って感じたのは、エネルギーを使って向かい合うことが何よりも大切だということ。そうやって、自分の中にもあるはずの子どもの心を見つけることがとても楽しかった。そしてすべての子どもたちがリスペクトされるべきだ、そんな思いに至りました。生まれた歌がこの先も愛されますように。



村松 健さん

今回19人の子ども達に、普段は言わないような、家族に対する素直な思いを言葉にしてもらった。短い歌詞にすると感謝も文句も不思議と書けちゃう。歌を書く際、表現者となった子ども達の歌詞を読み返し浮かんだ言葉が「あなたが好きだから」。普段は素直に言えないけど、みんな家族が好きなんです。これからも素直な自分を大切に！

新元 一文さん

実行委員の声

会場も一緒に手拍子をしてくれ、共感して聴いてくださっているのを感じました。参加した関西ネットワークの子どもから「共感・感動して涙が止まらなかった」という言葉をもらったり、アンケートでもこの歌に関する意見を多く頂いたりしたので、多くの参加者の心に、子どもたちの思いが歌というカタチで届いたことを嬉しく感じています。

大舞台で歌うことは緊張したと思いますが、歌ってくれた子どもたちに感謝しています。また、報告書をまとめるにあたり、改めて子ども若者の皆さんが、出来上がった歌を気に入ってくれていることもわかりました。関わってくれた全ての方に感謝しています。

